

地域医療機能推進機構 (JCHO) 秋田病院

地域医療連携室だより



2017年度 第3号 9月

見つけたら、すぐ受診

褥瘡 (じょくそう) 外来

～発症すると長期化も～



褥瘡の発症には体位や栄養状態、局所の問題など多くの因子が絡み合っております。そのため一度発症すると治癒しづらく時には年単位での治療が必要になることもあります。そこで私たちは少しでも治癒の手助けになれるよう、

毎月第1・3金曜日に整形外科外来で担当医と皮膚・排泄ケア認定看護師による褥瘡の処置と、薬剤師や栄養士も含めたチームで体位や投薬、食事など日常生活の注意点も含めた全身的管理指導を行っております。その甲斐あって数年来治癒

しなかった褥瘡が治癒した症例もあります。ご家庭や施設内だけで抱え込まず、褥瘡外来を受診し相談していただければと思います。地域医療連携室で予約を承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

(整形外科医員 佐々木規博)

*佐々木医師異動のため10月からは第1・3月曜日、田中直医師に変更になりますのでよろしくお願ひします。



医師と専門看護師が対応 ～多職種連携し予防から治療まで～

褥瘡 (じょくそう：床ずれのことです) 外来は平成24年4月1日に開設し、5年目を迎えました。褥瘡は、1980年代までは「できたら死んでしまう」といった重症なものでした。しかし医療が進展し、褥瘡は治るものに変化しました。そして病院だけで治療するものではなく、住み慣れた在宅・施設でも治すことが可能です。

褥瘡外来は医師と褥瘡を専門に勉強してきた看護師を中心に、薬剤師や栄養士などの多職種と連携し、褥瘡の予防からケア、治療までをサポートしています。

「褥瘡ってなに?」「褥瘡になる可能性はありますか?」など些細なことでも構いません。皆さんが健康で褥瘡がなく生活できるよう、どうぞ褥瘡外来をご利用ください。

(皮膚・排泄ケア認定看護師 五十嵐元子、疋田由香)



訪問看護ステーション

「安心して過ごせる」ための訪問看護

～療養指導、点滴注射、創処置、終末期ケアなどを提供～

秋田病院附属訪問看護ステーションは、2016年3月に開設しました。地域にお住まいの方どなたにでも、主治医の指示のもと訪問できるようになりました。訪問看護では、健康状態に応じた療養指導や清潔援助、薬の管理、点滴注射、創処置、介護者の支援、終末期ケアなどを提供しております。利用者からは「安心して過ごせる」「訪問看護を楽しみにしている」との言葉をいただいております。また、病院附属であることを活かし、病棟や外来、リハビリテーション科との連携が密にできており、在宅療養への移行がスムーズにできています。当院の訪問看護の始まりは、約30年前になります。その時の看護師の熱い思い「医療・看護を必要とされる方に、安心して過ごして頂けるようにその人が住んでいる場所（ご家庭）で医療・看護を提供したい。」私たちはその思いをこれからも繋ぎ続け、これから訪れる超高齢化社会で、その人らしい生活を支援し続けたいと思っています。



(訪問看護ステーション管理者 大高喜代美)

病院・施設から在宅生活へ ～人気の訪問リハビリ～

JCHO 秋田病院の理学療法士の袴田佳祐と申します。昨年度から訪問リハビリテーション業務を引き継ぎ、担当することになりました。

午前中は院内の入院・外来患者様のリハビリを行い、午後から患者様のご自宅・入所施設へ伺い訪問リハビリを行っております。また昨年度当院の訪問看護ステーションの新設



に伴い、在宅医療の推進に向けた訪問リハビリへのニーズが能代市山本郡の広範囲で高まっています。

病院派遣型の訪問リハビリということで、急性期リハビリを終えた患者様がスムーズな在宅生活に移行できるようにサポート体制を心がけています。

リハビリ内容としては患者様の在宅環境を考慮した日常生活動作の練習、生活動作安定性向上のためのリハビリプログラムの施行、より安全な生活動作・自主的なトレーニングの指導を行い、変わりなく自宅での生活をおくれるよう維持的なリハビリを行っております。また家屋環境の整備や福祉用具の助言、提案も行っております。院内外のお他職種・患者様やそのご家族とのコミュニケーションや意見交換・情報共有をしていき、よりよい訪問リハビリを提供できるよう今後も努力していきたいと思っております。

(理学療法士 袴田佳祐)

介護老人保健施設コーナー

提灯あかりの下、多くのイベント楽しむ

～恒例の老健夏祭り開催～

8月22日に附属老健の毎年恒例の夏祭りを開催しました。老健施設内の会場は提灯飾りの優しい灯りでライトアップされ、いつもと異なるどこか懐かしさを感じさせる雰囲気となりました。午前中は出店の演出を施したスペースにて金魚すくい、紐引き、輪投げが行われました。景品を手にした皆さんのまるで童心にかえったようなワクワクした表情がとても印象的でした。午後は退職婦人教職員連合会と養蚕自治会婦人部による演目が行われました。AKB48の「365日の紙飛行機」に始まり、おなじみの「新能代音頭」では、入所者の方々が手拍子を打ち、合いの手を入れていただくなど会場が一体となって盛り上がりました。来年も盛り上がりましょう！



(介護老人保健施設管理課長補佐 橋本正明)

“お元気でお達者に” 保育園児が歌や遊戯をプレゼント

～敬老式で歳祝い、39名の方を表彰～

9月8日附属老健で敬老式が、行われました。石岡施設長から開会のあいさつがあり、歳祝いの方々39名(当日出席27名、男性8名、女性19名)に記念品と紅白の饅頭が送られました。その後、能代第四保育所園児によるお楽しみ会が行われました。お楽しみ会では、「大きな栗の木の下で」や「虫の声」の歌を合唱、「ワイワイ運動会」や「あんべいいな」の曲に合わせて遊戯を披露し、入所者やデイの方々の方々の後ろで「肩たたき」やお元気メダルのプレゼントが行われ、参加者から「上手だよ」「かわいい」「ありがとう」など大きな声援が沸き起こりました。最後に歳祝いの表彰者の方が、関係者に感謝のあいさつを行いました。

(地域医療連携室 袴田宏人)



研修医紹介

地域医療を体験

愛知県名古屋市にありますが JCHO 中京病院から来ました、2 年次研修医の伊藤康雄です。地域医療研修というローテートで 8 月 28 日よりお世話になっております、この研修中に色々と経験できればと思っています。さて、私が能代に来て驚いていることは先生方が毎日外来をこなし、それでいて病棟管理も行っていることです。私は研修医であり、専門外来をすることはありませんでした。毎日外来を、それも内科の専門外来をこなすことを体感し、改めて大変さを知りました。そのような環境の中で、看護師のみなさんの全力サポートのおかげで、未熟な私もなんとかこなせている状態です。本当に感謝しております。泌尿器科志望であり、濃厚に内科疾患に触れられる機会は今回が最後かもしれないので悔いのないよう励みたいです。この原稿を書いている 9 月 5 日現在は手術室に顔を出せていない状況ですが、何とか後半 2 週間でお手伝いをできたらいいと考えております。その際はまたよろしく願います。1 か月という短い間で、その中でなにかとご迷惑をおかけするとは思いますが、何卒よろしく願います。(研修医 伊藤康雄)



職員ペンリレー ～第 1 回～



雪冷え、ぬる爛、飛切爛、日本酒猛勉強中

放射線科診療放射線技師の阿部沙紀です。自己紹介ということで、最近勉強した日本酒について書かせていただきます。日本酒は熱燗・冷酒など温度により呼び名が様々ありますが、冷酒（れいしゅ）は冷たいお酒、冷や酒（ひやぎけ）は常温のお酒というのが正式な呼び方であるそうです。他にも温度によって、雪冷え、ぬる爛、飛切爛（とびきりかん）など呼び方が変わり、もちろん味の感じ方も変わります。秋田は米どころで美味しいお酒がたくさんあるので、様々な日本酒の味を感じたいと思います。

(診療放射線技師 阿部沙紀)



編集後記

三浦：すっかり秋空になり、稲や果物の収穫期に入ります。私たちの活動も前期評価間近！課題を明確にして、次に進みたいものです。

安藤：「〇〇の秋」と言えば読書の秋。世界で一番美しい書店はオランダのセレクトサイズ書店ドミニカネン店だそうです。そんなところに行ってみたいですね。

三熊：朝晩寒くなってきました。季節の変わり目で体調を崩さないよう注意しましょう。

袴田：また J アラート。怖いですね。皆様の安全を願っています。